

株式の状況 (2025年9月30日現在)

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	20,111,598株
株主総数	6,177名
大株主	

株主名	持株数	持株比率
タイガーエンジニアリング有限公司	1,965千株	9.8%
タイガース取引先持株会	1,933	9.7
澤田宏治	888	4.4
T.P.C持株会	860	4.3
INTERACTIVE BROKERS LLC	842	4.2
株式会社三菱UFJ銀行	817	4.1
株式会社京都銀行	776	3.9
澤田裕治	480	2.4
澤田純治	469	2.3
タイガースポリマー従業員持株会	429	2.1

(注) 持株比率は、自己株式(206,879株)を控除して算出し、小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。

所有者別株式分布状況

個人・その他	9,059,396株 (45.0%)
金融機関	3,214,418株 (15.9%)
その他国内法人	4,800,011株 (23.8%)
外国人	2,601,186株 (12.9%)
証券会社	229,708株 (1.1%)
自己名義株式	206,879株 (1.0%)

(注) 持株比率は、小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。

株主メモ

SHAREHOLDER MEMO

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
基準日	定期株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定める日
定期株主総会	毎年6月開催
公告方法	電子公告 https://tigers.jp/ ただし、電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
単元株式数	100株
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
郵便物送付先・連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-782-031 ※取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
住所変更・単元未満株式の買取・買増等のお申出先	お取引口座のある証券会社にお申し出ください。ただし、特別口座に記録された株式に係る各種手続につきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
未支払配当金のお支払い	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

第84期 中間報告書

2025年4月1日から2025年9月30日まで

株主・投資家の皆さまへ

TOP MESSAGE



代表取締役社長
澤田 宏治

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。
さて、第84期中間報告書(2025年4月1日から2025年9月30日まで)をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申しあげます。
当社は、1938年にゴムホース・工業用ゴム製品のメーカーとして創業し、合成樹脂とゴムを材料に、「3つの技術(ホース、ゴムシート、モールド(成形品))を作る技術」を使い、「4つの市場(家電、自動車、土木・建築・住宅、産業資材)」に販売することで、バランスの取れた経営戦略を構築し、ニッチな市場で高いシェアを獲得することを基本方針としております。

さらには、「独自の技術で開発した機能部品を世界の市場に提供する」という方針に基づき、積極的な研究開発投資により、多種多様な「製品開発能力」並びに「性能解析能力」を高め、独自性の強い新製品を世界の市場に広く提供しております。

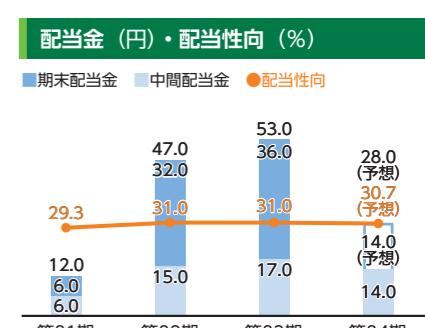
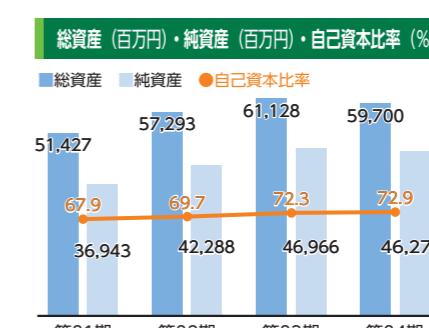
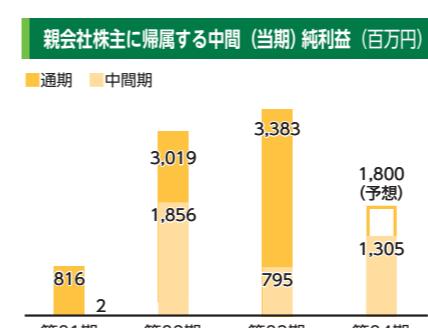
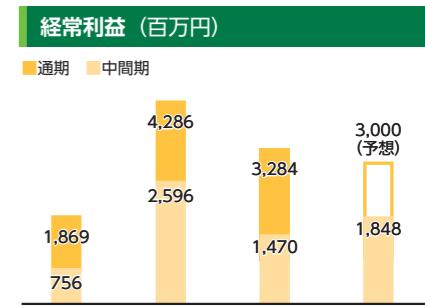
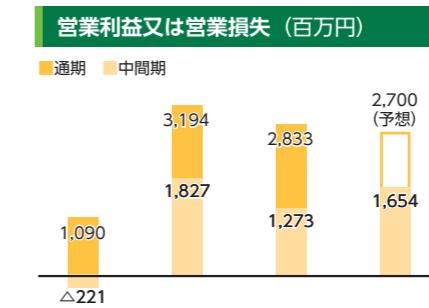
国内情勢を見ますと、空前の人手不足や物価高騰等の問題があり、又、世界に目を向けますと、中東やロシア・ウクライナ情勢等の地政学リスクの高まりや、トランプ関税の影響等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

こうした中、「信念ある柔軟性」という社是のもと、時代の流れを着実に捉えながら、広い視野と見識を持って変化に向き合える人材の育成に専心するとともに、

「損得以前にまずは善悪」を基準に、自分たちのなすべきことは何かを定め、徹底した顧客指向によって、株主の皆さまや社会からの期待と信頼に応える企業として、さらなる飛躍を図っていきたいと考えております。

なお、中間配当金につきましては、1株につき14円とさせて頂きました。
今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申しあげます。

2025年12月



日本

家電用ホース・産業用ホース、ゴムシート類及び自動車部品は売価値上げの効果や販売の増加により、增收・増益となりました。その結果、売上高は11,937百万円（前年同期比774百万円6.9%増加）、セグメント利益（営業利益）は420百万円（前年同期比248百万円143.8%増加）となりました。

米州

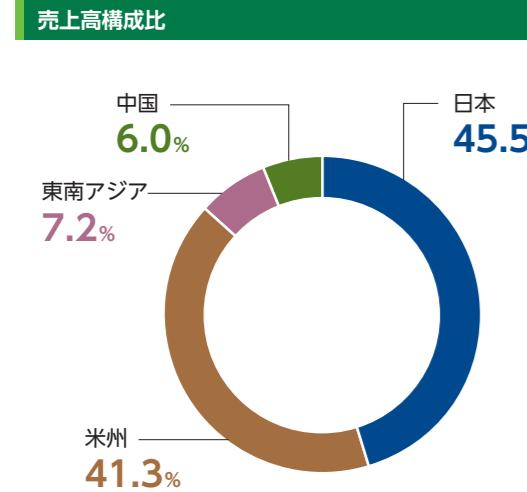
米国では、自動車部品の販売が増加しましたが、産業用ホースの販売は減少し、さらに為替換算の影響も受けたため減収・減益となりました。メキシコでは自動車部品の販売が増加し增收・増益となりました。その結果、売上高は10,834百万円（前年同期比939百万円8.0%減少）、セグメント利益（営業利益）は1,160百万円（前年同期比14百万円1.2%減少）となりました。

東南アジア

タイでは、自動車部品の金型販売が減少したため、わずかに減収となりましたが、経費の減少により増益となりました。マレーシアでは、当社の連結子会社であるTigers Polymer(Malaysia) Sdn. Bhd.は、清算に向けて事業規模を縮小しているため減収・減益となりました。その結果、売上高は1,879百万円（前年同期比49百万円2.6%減少）、セグメント利益（営業利益）は111百万円（前年同期比0.3百万円0.3%増加）となりました。

中国

中国では、家電用ホース及び自動車部品の販売減少により、売上高は1,580百万円（前年同期比343百万円17.9%減少）となりました。減収の影響を受けましたが、労務費や諸経費の削減により、セグメント損失（営業損失）は90百万円（前年同期はセグメント損失236百万円）となりました。



トピックス

TOPICS

TFT竣工：2026年1月工場稼働



2023年10月タイに設立したTigerflex (Thailand) Co., Ltd. (TFT) の竣工を2025年9月に迎えることができました。竣工式には、工事関係協力業者様等、ご来賓の方々に参列して頂きました。

当社の東南アジアにおける汎用ホース事業拡大の中心的役割を担うべく、TFTでは、事務所内での業務を開始しており、計画通り2026年1月からの工場稼働に向け、本格的に設備導入等の準備に入っています。

グローバルネットワーク

グローバルな生産・供給体制を構築

タイガースポリマーグループでは、国内外に生産拠点・販売拠点・開発拠点を展開し、日本国内の事業所及び国内・海外の子会社との有機的なネットワークを形成することにより、グローバルな生産・供給体制を構築しています。

- ① 本社 ② 東京支店 ③ 名古屋支店 ④ 大阪支店 ⑤ 広島支店 ⑥ 栃木工場
- ⑦ 静岡工場 ⑧ 岡山工場 ⑨ 開発研究所 ⑩ 購買部
- ⑪ Tigerflex Corporation (米国) ⑫ Tigerpoly Manufacturing, Inc. (米国)
- ⑬ Tigerpoly Industria de Mexico S.A. de C.V. (メキシコ) ⑭ Tigerpoly(Thailand) Ltd. (タイ国)
- ⑮ Tigerflex(Thailand) Co., Ltd. (タイ国) ⑯ Tigers Polymer(Malaysia) Sdn. Bhd. (マレーシア)
- ⑰ Tiger Asian Trading(Malaysia) Sdn. Bhd. (マレーシア) ⑱ 杭州泰賀塑化有限公司 (中国)
- ⑲ 広州泰賀塑料有限公司 (中国)
- ⑳ 武庫川化成株式会社 (兵庫県) ㉑ 高機能化成株式会社 (大阪府)
- ㉒ タイガース工販株式会社 (兵庫県) ㉓ ラバー・フレックス株式会社 (大阪府)



研究・開発

RESEARCH & DEVELOPMENT

独自性の高い新製品の提供で、市場ニーズを先取り、持続可能な社会へチャレンジ

当社は、「お客さまに価値の高い製品を提供する」という社長方針に基づき、ゴム及び樹脂材を使用した製品の最適提案及び品質保証を行なながら、日々研究開発に取り組んでいます。新規機能部品の開発においては各開発部門より専門性を持ったメンバーを集結させ、プロジェクトチームを組み推進しています。また、開発研究所の設備においては最新のX線測定装置やシート試作装置などを導入し、研究開発体制のさらなる強化を図っています。

生産技術の向上・自動化推進の一環として、岡山工場や武庫川化成㈱にAI技術を活用したゴムシート及びホース製品の外観検査装置を導入し省人化へ向けた取り組みを行っています。現在は、他製品へも外観検査装置の横展開や協働ロボットを用いた省人化工程を進めており、効率的で高品質な生産体制の構築を目指しています。これらの技術は、安定した製品品質や生産効率の向上を実現するだけでなく、従業員の負担軽減や働きやすい職場環境の実現にもつながっています。

今後も、新しい技術を用いた研究開発においては、カーボンニュートラルに向けた取り組みや電動車用部品の研究開発に、そして産業用ホース、理化学用・食品用チューブ、インフラ向けゴムシートといった製品においては、市場のニーズを先取りするだけでなく、持続可能な社会への貢献できる製品開発に、チャレンジし続けます。

開発推進製品



ソフトロボット（ロボットハンド）



耐放射線製品



スーパー・エンプラホース

生産技術（自動化工程）



協働ロボット自動化工程



脱型自動化工程



ゴムシート自動カット工程